授 業 計 画

教 職 科 目

２０１６年度

（平成 28 年度）

久留米工業大学

目　　次

授　業　科　目	ページ	授　業　科　目	ページ
教職入門	1	工業科教育法Ⅰ	16
教育基礎論	2	工業科教育法Ⅱ	17
教育心理学	3	工業科教育法Ⅲ	18
教育行政学	4	道徳教育の理論と方法	19
教育課程・特別活動論	5	教育方法論	20
情報科教育法Ⅰ	6	生徒・進路指導論	21
情報科教育法Ⅱ	7	教育相談の基礎	22
理科教育法Ⅰ	8	教職実践演習	23
理科教育法Ⅱ	9	教育実習Ⅰ	24
理科教育法Ⅲ	10	教育実習Ⅱ	25
理科教育法Ⅳ	11	教育実習Ⅲ	26
数学科教育法Ⅰ	12	介護等体験	27
数学科教育法Ⅱ	13		
数学科教育法Ⅲ	14		
数学科教育法Ⅳ	15		

授業科目名	教　職　入　門	科目コード	70630
英字科目名	Quality of Educators	コース名	教　職　課　程

科目区分	教職に関する科目 （共通教育科目を兼ねる）	セメスター （履修学年・学期）	４セメスター（２年次・後期）
代表教員	原 幸範	単　　位	２　単位
担当教員	原 幸範（Yukinori HARA）		
使用テキスト	プリント配布		
授業の概要	教育力についての分析を通して、教師の使命や授業することの面白さ、授業スキルの向上などについて考察する。生徒にとって「魅力ある授業」を組み立てることは教師の必須条件である。そのための教材研究・生徒理解・学習指導方法を理解して、学習指導案作成や模擬授業の実施、授業参観を通して教師の役割を考える。		
到達目標	⑴　教師に関する基礎基本を学び、教師の職責を充分に果たせる能力を身につける。 ⑵　学校教育の意義と役割を理解し、教育が果たす有意性を説明できるようになる。 ⑶　教職に関して具体的に学び、自分が将来、教職に就くかどうかの判断材料とする。		

授　業　計　画

講義内容		修得すべき項目
⑴	教えることと学ぶこと	□教えることの意義及び学ぶ姿勢についての理解
⑵	理想とする教師像と教師の使命	□教師の使命感を踏まえて理想の教師像を描く
⑶	教育力の基本について	□教育における技能と方法についての理解
⑷	教師の任務と役割について	□教師として求められる資質・能力と教職の魅力
⑸	「模倣する力」とその段取り	□生徒の「学ぶ力」を生かした授業展開について
⑹	教育の専門性と教育職員の在り方	□ＩＬＯ・ユネスコ「教員の地位に関する勧告」から
⑺	現代社会が求める学校教育と教師	□学習指導要領の考え方と教育職員養成審議会(答申)、教育制度の変遷と今後の学校教育の在り方について
⑻	研究と探求心、「関係性能力」を生かす	□教材研究の方法と学習指導案作成の実際
⑼	校内定期試験の位置づけと作成	□教材観・指導方法観と学習指導案作成の実際
⑽	見抜く力、見守る力の意義と活用	□生徒の実態を把握した学習指導案の作成の実際
⑾	教育という文化遺産を継承する力	□授業を実施するときの指導方法と留意事項を考える
⑿	応答できる力（反応する力、気づく力）	□研究授業、模擬授業、授業参観を通して教育を考える
⒀	アイデンティティを育てる教育	□模擬授業の実際と授業参観を通して、教授法を考える
⒁	ノートの本質と課題プリントの役割	□模擬授業の実際とノート指導やプリント作成の工夫
⒂	教育のスタイルと生活リズム	□勤務時間、服務規程、体調管理などについての理解

履修上の注意	授業で取り扱う事項は学校現場ではどのように生かされているのか。授業で示された事例は現場でどのように解決されているのか。講義内容を理解し、論作文に表現し、各自の考えを発表できるようにする。そして、自分の魅力や適性・能力を考えつつ、将来 教職に就きたいかどうかを判断する機会にする。
準備学習の内容	教育問題に関するニュースに興味関心のアンテナを張る。また、参考図書を利用して、実践的な能力や科学的思考力を養うための論作文・課題レポートを作成する。
参考図書	『分かる授業ができる学習指導案のつくり方 』 大木光夫(著)　(学習研究社)
学習相談	６号館４階　　原 研究室　　e-mail: yuk-hr @ kurume-it.ac.jp
成績評価方法	課題レポート及び論作文　５０％　　期末テスト　５０％
関連科目	教職科目全般

授業科目名	教　育　基　礎　論	科目ｺｰﾄﾞ	70550
英文科目名	Introduction to Education	コース名	教　職　課　程
科目区分	教職に関する科目(共通教育科目を兼ねる)	履修セメスター	２セメスター(1年次･後期)
代表教員	堀　憲一郎	単　　位	２単位
担当教員	堀　憲一郎（Kenichiro HORI）		
使用テキスト	プリント配布		

授業の概要

毎回の授業の前半では、教育をめぐる社会的トピックをとりあげ、受講者同士で議論を行い、自分たちの考えを発表する。後半では、講義を通して様々な教育に関する思想や事項を今日の実際の教育場面に即して検討する。

到達目標

(1)教育についての全般的な見通しをもつために必要な知識を身に付ける。
(2)また、それを自分の言葉で端的に表現出来る文章力を身に付ける。
(3)他者と協同して理解を深めたり、新しい知識を身に着けていく方法を学ぶ。

授　業　計　画

講義内容		修得すべき項目
(1)	教育の理念	□理性主義的人間観　□その教育理念
(2)	教育の目的	□生命本位的人間観　□その教育理念
(3)	教育の性質と意義	□教育の意義とその性質についての理解
(4)	西洋の教育の歴史(1)	□それぞれの時代の社会背景と教育の関係
(5)	西洋の教育歴史(2)	□それぞれの時代の社会背景と教育の関係
(6)	西洋の教育の歴史(3)	□それぞれの時代の社会背景と教育の関係
(7)	日本の教育の歴史(1)	□それぞれの時代の社会背景と教育の関係
(8)	日本の教育の歴史(2)	□それぞれの時代の社会背景と教育の関係
(9)	言語・コミュニケーションと教育	□言語能力の発達と知・情・意　□言語能力の獲得
(10)	環境デザインと教育	□教育とそれを効果的にする環境のデザインについて
(11)	遊びと教育	□遊びによる諸能力の発達
(12)	しつけと教育	□生活の中でのしつけ
(13)	食事と教育	□食事の変化による心身の変化
(14)	テレビおよびテレビゲームと教育	□家族の会話とテレビ　□ゲームによる中毒症状
(15)	総まとめ	□全体の学習の振り返りと理解の確認

履修上の注意	指定教科書は用いないので，講義内容をノートにまとめ，復習すること。毎回の授業では、学生同士の活発なディスカッションと発表が必要。
準備学習の内容	毎回の授業で示す課題について準備をして授業に参加すること。
参考図書	授業で紹介する。
学習相談	堀　研究室　　e-mail: hori@kurume-it.ac.jp
成績評価方法	課題提出・授業態度 40%，中間テストと期末試験 60%で総合評価
関連科目	教職科目全般

授業科目名	教　育　心　理　学	科目コード	70560
英字科目名	Educational Psychology	コース名	教　職　課　程

科目区分	教職に関する科目(共通教育科目を兼ねる)	履修セメスター	３・５セメスター （2・3年次・前期）
代表教員	堀　憲一郎（Kenichiro HORI）	単位	２単位
担当教員	堀　憲一郎（Kenichiro HORI）		
使用テキスト	プリント配布		
授業の概要	教育心理学では、人がどのように発達し様々な能力を獲得していくのかについて理解するとともに、教授学習場面において人がどのように学習内容を理解していくのかについてのメカニズムと、そこに関わる教師の役割や影響、また教育心理学から見た教育における諸課題について概観していく。		
到達目標	講義を通して、心理学的知見や諸理論についての理解を深めることによって以下の目標の達成を目指す。（１）生徒を多面的に理解できる。（２）教師としての言動がどのような教育的意味を持つのかを理解する。（３）教師としてより効果的な教育的関わりを生徒との間に構築できる。		

授　業　計　画

講義内容		修得すべき項目
(1)	教育心理学とは何か	□　「教える－学ぶ」関係を心理的見地から理解
(2)	人はどのように学習するのか	□　心理学における「学習」の範囲と意味の理解
(3)	学習のメカニズム	□　学習理論の理解
(4)	学習を支える要因	□　動機づけ他，学習を促進する要因について
(5)	発達とは何か	□　発達を心理的見地から見る
(6)	発達段階と発達課題	□　各発達段階の特徴とそこでの課題の理解
(7)	社会性の発達	□　コミュニケーションの発達と課題
(8)	知的能力の発達	□　知的能力・知能の発達について
(9)	パーソナリティの理解	□　人格理解の理論と方法
(10)	適応と障害	□　心理的不適応の原因とそれへの対応
(11)	発達障害の理解と対応	□　ＬＤ・ＡＤＨＤ等発達障害の理解と対応について
(12)	教授学習過程の分析	□　教授法・学習法の理解
(13)	学級集団の理解	□　学級集団と教師の役割
(14)	教育評価と教育統計	□　教育効果の方法と問題
(15)	総まとめ	

履修上の注意	指定教科書は用いないので，講義内容をノートにまとめ，復習すること
準備学習の内容	授業で示す課題の準備を行い、授業に参加すること。
参考図書	授業で紹介する
学習相談	堀　研究室　　e-mail: hori@kurume-it.ac.jp
成績評価方法	課題提出・授業態度 40%，中間テストと期末試験 60%で総合評価
関連科目	教職科目全般
その他	各回の授業において課題やレポートの提出を求めることがある

授業科目名	教 育 行 政 学	科目コード	70570
英字科目名	Educational Policy	コース名	教　職　課　程
科目区分	教職に関する科目 （共通教育科目を兼ねる）	セメスター （履修学年・学期）	4・6 セメスター （2・3 年次・後期）
代表教員	原 幸範（Yukinori HARA）	単　　位	2　単位
担当教員	原 幸範（Yukinori HARA）		
使用テキスト	プリント配布		
授業の概要	20 世紀における日本の公教育制度の変遷を振り返えることにより現在の教育政策の方向を解説していく。今後 10～20 年の教育政策を概観しながら、教育委員会や教育行財政等についての理解を深める。さらに、学校経営、学級経営、生涯学習などについての事例を学びつつ、教育に携わる人々にとって教育行政がどのようにあるべきかを考察する。		
到達目標	⑴ 日本の公教育の仕組みを理解し、現代の教育政策と教育行政の課題を見抜く力を養う。 ⑵ 生涯学習の在り方を理解し、学校教育と生涯教育の結びつきを説明できるようになる。 ⑶ 教育現場における具体的事例を考察することにより、適切な行動がとれるようになる。		

授　業　計　画

講義内容		修得すべき項目
(1)	学校現場で働く教師の現状と課題	□教師の現状と課題、その解決を考える
(2)	公教育制度の変遷と法的根拠(1)	□日本国憲法及び教育基本法等と教育政策
(3)	公教育制度の変遷と法的根拠(2)	□学校教育法及び地方教育行政法等と教育政策
(4)	教育制度改革の動向(1)	□教育振興基本計画と生涯学習社会について
(5)	教育制度改革の動向(2)	□中央教育審議会答申と教育再生実行会議について
(6)	教育行政の仕組み(1)	□教育行政の制度の変遷についての理解
(7)	教育行政の仕組み(2)	□教育行財政と教育費の関係について
(8)	地方教育行政(1)	□教育委員会制度と学校の実態について
(9)	地方教育行政(2)	□総合教育会議、学校運営協議会、学校評議員について
(10)	教職員の義務と責任	□管理職と教職員との良好な関係、研修制度の活用
(11)	学校経営の領域と組織	□学校組織力と効率的な運営について
(12)	学校経営の考え方	□学校の実態と校長のリーダーシップについて
(13)	学校運営における学級経営	□学校組織における学年運営と学級経営について
(14)	生涯学習と学校教育	□生涯学習社会構築に果たす学校の役割
(15)	学校と地域と教育行政の関係（まとめ）	□現場教師が意欲的に働ける学校づくりを考える

履修上の注意	復習テストを毎回実施し、課題レポートを適時与えるので予復習に努めること
準備学習の内容	日本国憲法における教育に関する条文や教育基本法の条文を完全に暗記する。また、課題レポートに記載されたキーワードの意味や意義を必ず事前調査すること。
参考図書	『いま、学校の先生は』朝日新聞教育チーム（岩波書店） 『解説 教育六法（平成 26 年度版）』編修委員会 編（三省堂書店）
学習相談	6 号館 4 階　　原 研究室　　e-mail: yuk-hr @ kurume-it.ac.jp
成績評価方法	課題レポート　30%　　復習テスト　10%　　期末テスト　60%
関連科目	教職科目全般

授業科目名	教育課程・特別活動論	科目コード	70580
英字科目名	Curriculum Development and Extra-Curricular Activities	コース名	教　職　課　程
科目区分	教 職 に 関 す る 科 目	セメスター（履修学年・学期）	3セメスター（2年次・前期）
代表教員	原 幸範（Yukinori HARA）	単　　位	2　単位
担当教員	原 幸範（Yukinori HARA）		
使用テキスト	『高等学校学習指導要領 総則編』文部科学省（東山書房 2009.11.） 及び『高等学校学習指導要領 特別活動編』文部科学省（海文堂出版 2009.11.） または『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省（ぎょうせい 2008.9.） 及び『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省（ぎょうせい 2008.9.）		
授業の概要	教育課程を編成する考え方や基本的な枠組みについて解説する。また、特別活動の内容や指導方法について具体的な事例をもとに解説する。適宜、学習指導要領を参照しながら、学校現場における実践的な活動を紹介していく。		
到達目標	⑴ 教育課程の意義を理解し、教育効果を高めるための方法を身に付ける。 ⑵ 特別活動の内容を理解し、教育現場における適切な対処を説明できるようになる。 ⑶ 講義で紹介される実践例を通して、その教育的意義や教育的価値などについて考察し、学校現場に教師として赴任した際に、戸惑わずに指導できる能力を養う。		

授　業　計　画

	講義内容	修得すべき項目
(1)	教育課程とは何か	□高等学校学習指導要領・中学校学習指導要領を概観
(2)	教育課程の類型(1)	□教科カリキュラム及び経験カリキュラムの特徴
(3)	教育課程の類型(2)	□発展的教科カリキュラムとコアカリキュラムの相違
(4)	日本の教育課程の基本的枠組み	□日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、及び中央教育審議会答申や教育委員会等を理解する
(5)	学習指導要領と教育改革	□概要と沿革を学び、今後の教育政策の方向を考える
(6)	教育課程編成のための視点	□児童生徒の発達段階に応じた配列、学習内容の系統性
(7)	日本の教科書と教科書制度	□教科書検定制度と教育内容の変化について
(8)	教育課程における特別活動の位置づけ	□特別活動の内容と教育的意義と価値について
(9)	特別活動の目標と具体的な事例	□自己教育力の育成と特別活動の具体的事例
(10)	学級活動・ホームルーム活動	□学級経営における学級担任の役割を考える
(11)	生徒会活動の概要と現状	□児童・生徒の実態と自治的活動への意識を理解する
(12)	生徒会が抱える課題と解決の道筋	□「生徒会活動が学校生活を豊かにする」ことを考える
(13)	学校行事の概要と現状	□体育的行事や文化的行事の実施状況を理解する
(14)	学校行事を実施する上での課題	□各学校における教育目標と学校行事の関係を学ぶ
(15)	これまでの教育実態と今後の教育政策	□近年の教育制度を振り返り、今後の教育を考察する

履修上の注意	出身高校の教育課程を参考に各自が教育課程の編制を試みる。また、各自の編制した教育課程がどのような教育効果を上げるかを考察する。更に、特別活動や教科科目の学習内容を吟味することによって学校教育目標の達成度を検討する。
準備学習の内容	出身高校のホームページ等を利用して、教育課程の編制や学校行事等を調べること。
参考図書	教育六法（日本国憲法、教育基本法、学校教育法ほか）解説書
学習相談	6号館4階　　原 研究室　　e-mail: yuk-hr @ kurume-it.ac.jp
成績評価方法	授業取り組み状況 20%　　課題レポート　30%　　期末テスト　50%
関連科目	教職科目全般

授業科目名	情　報　科　教　育　法　Ⅰ	科目コード	70930
英字科目名	Instructional Methods in Information Ⅰ	コース名	教　職　課　程
科目区分	教 職 に 関 す る 科 目	履修セメスター (履修学年･学期)	５セメスター (3 年次・前期)
代表教員	吉 田 清 明(Kiyoaki YOSHIDA)	単位	２単位
担当教員	吉 田 清 明(Kiyoaki YOSHIDA)		
使用テキスト	岡本　敏雄 他著「情報科教育法(第２版)」(丸善出版)、『高等学校学習指導要領・第 2 章 第 10 節 情報』(2009 年 3 月) およびプリント配布		
授業の概要	「学科に共通する教科」としての「情報」のうち、前半では「社会と情報」の、後半では「情報の科学」の目標と内容について検討する。また、学習指導案の作成と模擬授業を指導し、学習指導案の提出と模擬授業の実施を求める。授業はアクティブラーニング形式で実施する。		
到達目標	（１）情報化社会に積極的に参加する能力と態度を身につける。 （２）情報化社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を生徒にどのように教育していけばよいかについて自分の考えを持てるようにする。 （３）学習指導案の作成を通して、各分野の教授法についての考えを持てるようにする。		

授　業　計　画

講義内容		修得すべき項目
(1)	「社会と情報」の概要と目標	□情報の特徴 □情報化が社会に及ぼす影響
(2)	情報の活用と表現	□情報とﾒﾃﾞｨｱの特徴 □情報のﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ化 □情報の表現と伝達
(3)	情報通信ﾈｯﾄﾜｰｸとｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ (1)	□ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ手段の発達 □情報通信ﾈｯﾄﾜｰｸの仕組み
(4)	情報通信ﾈｯﾄﾜｰｸとｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ (2)	□情報通信ﾈｯﾄﾜｰｸの活用とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
(5)	情報社会の課題と情報ﾓﾗﾙ (1)	□情報化が社会に及ぼす影響と課題
(6)	情報社会の課題と情報ﾓﾗﾙ (2)	□情報ｾｷｭﾘﾃｨの確保 □法と個人の責任
(7)	望ましい情報社会の構築	□社会における情報ｼｽﾃﾑ □情報ｼｽﾃﾑと人間 □情報社会における問題の解決
(8)	「情報の科学」の概要と目標	□情報技術の役割と影響 □情報と情報技術の問題に取り組むための科学的な考え方
(9)	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀと情報通信ﾈｯﾄﾜｰｸ	□ｺﾝﾋﾟｭｰﾀと情報の処理 □情報通信ﾈｯﾄﾜｰｸの仕組み□情報ｼｽﾃﾑの働きと提供するｻｰﾋﾞｽ
(10)	問題解決とｺﾝﾋﾟｭｰﾀ (1)	□問題解決の基本的な考え方 □問題の解決と処理手段の自動化
(11)	問題解決とｺﾝﾋﾟｭｰﾀ (2)	□ﾓﾃﾞﾙ化とｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ
(12)	情報の管理と問題解決 (1)	□情報通信ﾈｯﾄﾜｰｸと問題解決 □評価と改善
(13)	情報の管理と問題解決 (2)	□情報の蓄積・管理とﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ
(14)	情報技術の進展と情報ﾓﾗﾙ	□社会の情報化と人間 □情報社会の安全と発展
(15)	総まとめ	

履修上の注意	情報教育についての自分の考えを主体的・積極的に深めていくこと。
準備学習の内容	配布資料を熟読しておくこと。
参考図書	文部科学省　著「高等学校学習指導要領解説情報編」(開隆堂出版)
学習相談	５号館３階　吉田研究室　　e-mail:seimei@kurume-it.ac.jp
成績評価方法	学習指導案(20%) 、模擬授業(30%)、期末テスト(50%)により総合評価
関連科目	情報科教育法Ⅰ → 情報科教育法Ⅱ

授業科目名	**情報科教育法Ⅱ**	科目コード	70940
英字科目名	Instructional Methods in Information Ⅱ	コース名	教職課程
科目区分	教職に関する科目	セメスター(履修学年・学期)	6セメスター(3年次・後期)
代表教員	小路口心二 (Shinji KOJIGUCHI)	単位	2単位
担当教員	小路口心二(Shinji KOJIGUCHI)		
使用テキスト	文部科学省「高等学校学習指導要領解説　情報編」		
授業の概要	「主として専門学科において開設される教科」としての「情報」の目標と内容について検討する。授業では学生同士による討議の時間も設け、各分野にどのような教育的工夫を行ない、どのような所に焦点を当てて教育を行なっていけばよいかについて互いの考えを深め合う。授業はアクティブラーニング形式で実施する。		
到達目標	(1) 情報の基本的知識と技術や現代社会における情報の意義や役割を生徒に理解させ、教育するにはどのようにすればよいかについて自分の考えを持てるようにする。 (2) 学生同士による討議を通して、教育者としてみずから工夫しながら授業を組み立てることができる。 (3) 学習指導案の作成を通して、教授法についての考えも持てるようにする。		

授業計画

講義内容		修得すべき項目
(1)	情報産業と社会	□情報化と社会　□情報産業と情報技術、情報モラル
(2)	情報の表現と管理	□情報の表現　□情報の管理
(3)	情報と問題解決	□問題の発見と解決　□問題解決の過程と評価
(4)	情報テクノロジー	□ハードウェア　□ソフトウェア　□情報システム
(5)	アルゴリズムとプログラム(1)	□アルゴリズムの基礎　□プログラミングの基礎
(6)	アルゴリズムとプログラム(2)	□数値計算の基礎　□データの型と構造
(7)	ネットワークシステム(1)	□ネットワークの基礎　□ネットワークの設計と構築
(8)	ネットワークシステム(2)	□ネットワークの運用と保守　□ネットワークの安全対策
(9)	データベース(1)	□データベースの概要　□データベース設計
(10)	データベース(2)	□データベースの操作言語　□データベース管理システム
(11)	情報メディア	□メディア の基礎　□情報メディア の特性と活用
(12)	情報デザイン	□情報デザインの基礎　□情報デザインの要素と構成
(13)	表現メディアの編集と表現	□表現メディアの種類と特性　□CGの制作
(14)	情報コンテンツ実習	□実習指導の注意点
(15)	課題研究	□課題研究指導の注意点

履修上の注意	授業において積極的に討議に参加し、情報教育についての自分の考えを深めること。
準備学習の内容	使用テキストの該当範囲を読んで、キーワードを理解しておくこと。
参考図書	岡本　俊雄，山極　隆，「情報の科学」(実教出版)
学習相談	5号館4階　小路口研究室　e-mail: kojguchi@kurume-it.ac.jp
成績評価方法	授業での討議の内容20%、学習指導案40%、期末テスト40%
関連科目	情報科教育法Ⅰ → 情報科教育法Ⅱ

授業科目名	理　科　教　育　法　Ⅰ	科目コード	70850
英字科目名	Instructional Methods in School Science I	コース名	理科コース
科目区分	教 職 に 関 す る 科 目	履修セメスター	５セメスター（3 年次・前期）
代表教員	井 出　純 哉（Jun-Ya IDE）	単位	２単位
担当教員	井 出　純 哉（Jun-Ya IDE）		
使用テキスト	『中学校学習指導要領解説・理科編』文部科学省編（大日本図書）（2008 年９月） 『高等学校学習指導要領解説・理科編理数編』文部科学省編（実教出版）（2009 年 12 月）およびプリント配布		
授業の概要	本科目では、わが国における理科教育の変遷、諸外国の理科教育、また理科教育の背後にある科学観・科学・技術観といった点について学ぶ。また、『高等学校学習指導要領』について検討する。		
到達目標	(1) 理科教育に関する様々な事項を学び、理科教員として基本的な知識を身につける。 (2) 理科教育について広く考える視点を身につける。 (3) 『高等学校学習指導要領』の検討を通し、高校理科の目標と内容を把握する。		

授　業　計　画

講義内容		修得すべき項目
(1)	わが国における理科教育の変遷(1)	□明治期から第二次大戦前までの理科教育
(2)	〃　(2)	□第二次大戦後の理科教育
(3)	諸外国の理科教育(1)	□ヨーロッパの理科教育
(4)	〃　(2)	□アメリカの理科教育
(5)	理科教育の背後にある科学観(1)	□科学的発見を支える思想
(6)	〃　(2)	□科学における聖俗革命
(7)	〃　科学技術観	□応用科学の思想
(8)	高校理科の概要と目標	□科学的に探求する能力と態度
(9)	「科学と人間生活」の目標、内容	□身近な事物・現象に対する科学的興味
(10)	「物理基礎、物理」　〃	□運動 □熱 □波 □電気と磁気 □原子
(11)	「化学基礎、化学」　〃	□物質の状態と変化 □無機物質 □有機化合物
(12)	「生物基礎、生物」　〃	□生命現象 □生殖と発生 □生態と環境 □進化
(13)	「地学基礎、地学」　〃	□地球の活動 □大気と海洋 □宇宙
(14)	「理科課題研究」　〃	□課題の設定 □観察、実験
(15)	総まとめ	□ふりかえり

履修上の注意	理科教育についての自分の考えを主体的・積極的に深めていくこと。 毎回の授業の最後に、その時間の授業で理解したこと・考えたことをレポートにまとめてもらう。
準備学習の内容	現在の理科教育の課題について、新聞報道などから情報を集めて考察しておくこと。
参考図書	中学・高等学校理科教科書
学習相談	１号館３階　井出研究室　e-mail: idejy@cc.kurume-it.ac.jp
成績評価方法	毎回の授業後のレポート 50%、期末テスト 50%
関連科目	理科教育法Ⅰ → 理科教育法Ⅱ

授業科目名	理　科　教　育　法　Ⅱ	科目コード	70860
英字科目名	Instructional Methods in School Science Ⅱ	コース名	理科コース
科目区分	教 職 に 関 す る 科 目	履修セメスター	６セメスター（3 年次・後期）
代表教員	井 出　純 哉（Jun-Ya IDE）	単位	２単位
担当教員	井 出　純 哉（Jun-Ya IDE）		
使用テキスト	『中学校学習指導要領解説・理科編』文部科学省編（大日本図書）（2008 年９月） 『高等学校学習指導要領解説・理科編理数編』文部科学省編（実教出版）（2009 年 12 月）およびプリント配布		
授業の概要	本科目では、中学・高校の理科の授業で行なう観察、実験、教育機器の活用について演習形式で検討する。また理科の指導において必要な図の作成演習も行なう。その際、学習指導要領を適宜参照する。		
到達目標	(1) 理科の授業で行なう観察、実験、教育機器の活用について学ぶ。 (2) 理科の授業における実践的教育力を高める。 (3) 理科授業を行なう際に必要な図の作成能力を高める。		

授　業　計　画

講義内容		修得すべき項目
(1)	理科における観察・実験の意義(1)	□物理における意義 □化学における意義
(2)	〃 (2)	□生物における意義 □地学における意義
(3)	理科における観察・実験の方法(1)	□物理における実験
(4)	〃 (2)	□化学 〃
(5)	〃 (3)	□生物 〃
(6)	〃 (4)	□地学 〃
(7)	理科における教育機器の活用(1)	□物理における教育機器の活用
(8)	〃 (2)	□化学 〃
(9)	〃 (3)	□生物 〃
(10)	〃 (4)	□地学 〃
(11)	理科における図の作成演習(1)	□物理における図の作成演習
(12)	〃 (2)	□化学 〃
(13)	〃 (3)	□生物 〃
(14)	〃 (4)	□地学 〃
(15)	総まとめ	□ふりかえり

履修上の注意	毎回の演習後においては、理解したこと・考えたことをレポートにまとめてもらう。
準備学習の内容	今まで受けてきた理科授業を振り返り、その方法の長短について考えをまとめておくこと。
参考図書	中学校理科、高等学校理科（物理基礎、物理、化学基礎、化学、生物基礎、生物、地学基礎、地学）教科書
学習相談	３号館１階　井出研究室　e-mail: idejy@cc.kurume-it.ac.jp
成績評価方法	毎回のレポート 30%、図の作成演習 30%、期末テスト 40%
関連科目	理科教育法Ⅰ → 理科教育法Ⅱ → 理科教育法Ⅲ

授業科目名	理　科　教　育　法　Ⅲ	科目コード	70870
英字科目名	Instructional Methods in School Science Ⅲ	コース名	理科コース
科目区分	教 職 に 関 す る 科 目	履修学年・学期	7セメスター（4年次・前期）
代表教員	中 村 文 彦 (Fumihiko　NAKAMURA)	単位	２単位
担当教員	中 村 文 彦 ・中 村 美 紗・巨 海 玄 道・野田常雄（授業形態：複数）		
使用テキスト	『中学校学習指導要領解説・理科編』文部科学省編(大日本図書)（2008年９月） 『高等学校学習指導要領解説・理科編理数編』文部科学省編(実教出版)（2009年12月）およびプリント配布		
授業の概要	本科目では、中学・高等学校の理科（特に中学理科第１分野）で必要な知識・技能を、『学習指導要領』とともに検討する。次に、その各領域について、学習指導案の作成および模擬授業・模擬実験を行なう。		
到達目標	(1)中学理科の学習指導要領の目標と第１分野の内容を理解すること (2)実際の指導法に習熟し、実験や第１分野の教材開発などができること (3)模擬授業・模擬実験を行えること		

授　業　計　画

講義内容		修得すべき項目
(1)	中学理科の概要と目標	□探求の意欲　□観察と実験　□科学的思考
(2)	身近な物理現象(1)	□光と音
(3)	身近な物理現象(2)	□力と圧力
(4)	身の回りの物質(1)	□物質のすがた　□水溶液
(5)	身の回りの物質(2)	□状態変化
(6)	電流とその利用(1)	□電流
(7)	電流とその利用(2)	□電流と磁界
(8)	化学変化と原子・分子	□物質の成り立ち　□化学変化　□化学変化と物質の質量
(9)	運動とエネルギー	□運動の規則性　□力学的エネルギー
(10)	化学変化とイオン	□水溶液とイオン　□酸・アルカリとイオン
(11)	科学技術と人間	□エネルギー　□科学技術の発展
(12)	模擬授業(1)	□学習指導案作成 □分かりやすい授業のための説明
(13)	〃　(2)	□学習指導案作成 □分かりやすい授業のための板書
(14)	〃　(3)	□学習指導案作成 □分かりやすい授業のための発問
(15)	総まとめ	□ふりかえり

履修上の注意	中学理科の第１分野について、自分の理解を深める姿勢で学習指導案の作成・模擬授業に取り組むこと。
準備学習の内容	中学理科の教科書をよく読んでおくこと。
参考図書	中学理科教科書（大日本図書など）
学習相談	３号館１階 中村文／物理実験室　e-mail: fumihiko@kurume-it.ac.jp
成績評価方法	学習指導案30%、模擬授業30%、期末テスト40%
関連科目	理科教育法Ⅱ → 理科教育法Ⅲ → 理科教育法Ⅳ

授業科目名	理　科　教　育　法　Ⅳ	科目コード	70880
英字科目名	Instructional Methods in School Science Ⅳ	コース名	理科コース
科目区分	教 職 に 関 す る 科 目	履修学年・学期	8セメスター（4年次・後期）
代表教員	中 村 文 彦 (Fumihiko NAKAMURA)	単位	２単位
担当教員	井 出　純 哉・巨 海 玄 道・中 村 文 彦・野田常雄（授業形態：複数）		
使用テキスト	『中学校学習指導要領解説・理科編』文部科学省編(大日本図書)（2008年９月） 『高等学校学習指導要領解説・理科編理数編』文部科学省編(実教出版)（2009年12月）およびプリント配布		
授業の概要	本科目では、中学・高等学校の理科（特に中学理科第２分野）で必要な知識・技能を、『学習指導要領』とともに検討する。次に、その各領域について、学習指導案の作成および模擬授業・模擬実験を行なう。		
到達目標	(1)中学理科の学習指導要領の目標を理解すること (2)実際の指導法に習熟し、観察や第２分野の教材開発などができること (3)模擬授業・模擬観察指導・実験指導が行えること		

授　業　計　画

講義内容		修得すべき項目
(1)	中学理科第２分野の概要と目標	□探求の意欲　□観察と実験　□科学的思考　□生命の尊重
(2)	植物の生活と種類(1)	□生物の観察　□植物の体のつくりと働き
(3)	植物の生活と種類(2)	□植物の仲間
(4)	大地の成り立ちと変化	□火山と地震　□地層の重なりと過去の様子
(5)	動物の生活と生物の変遷(1)	□生物と細胞　□動物の体のつくりと働き
(6)	動物の生活と生物の変遷(2)	□動物の仲間　□生物の変遷と進化
(7)	気象とその変化	□気象観測　□天気の変化　□日本の気象
(8)	生命の連続性	□生物の成長と殖え方　□遺伝の規則性と遺伝子
(9)	地球と宇宙	□天体の動きと地球の自転・公転　□太陽系と恒星
(10)	自然と人間(1)	□生物と環境　□自然の恵みと災害
(11)	自然と人間(2)	□自然環境の保全と科学技術の利用
(12)	模擬授業(1)	□学習指導案作成 □分かりやすい授業のための説明
(13)	〃　(2)	□学習指導案作成 □分かりやすい授業のための板書
(14)	〃　(3)	□学習指導案作成 □分かりやすい授業のための発問
(15)	総まとめ	□ふりかえり

履修上の注意	中学理科第２分野の各領域について、自分の理解を深める姿勢で学習指導案の作成に取り組むこと。
準備学習の内容	中学理科の教科書をよく読んでおくこと。
参考図書	中学校理科（大日本図書）など
学習相談	３号館１階　井出研究室　e-mail: idejy@cc.kurume-it.ac.jp
成績評価方法	学習指導案30%、模擬授業30%、期末テスト40%
関連科目	理科教育法Ⅲ → 理科教育法Ⅳ

授業科目名	数学科教育法Ⅰ	科目コード	70890
英字科目名	Instructional Methods in Mathematics I	コース名	数学コース
科目区分	教職に関する科目	セメスター(履修学年･学期)	5セメスター(3年次・前期)
代表教員	渋谷　憲政	単位	2単位
担当教員	渋谷　憲政(Norimasa SHIBUTANI)		
使用テキスト	『高等学校学習指導要領解説・数学編・理数編』(文部科学省) およびプリント配布		
授業の概要	高等学校の学習指導要領を読み、特に数学Ⅰ、数学Ⅱの内容とその教育方法を学習します。社会生活と数学の関係の具体例を挙げてもらい、教材開発の一助とします。生徒が間違いやすい例も多く挙げ、授業実習に活かします。後半では学習指導案を作成し、実際に模擬授業を各人に行なってもらいます。その後、質疑応答を行ない、模擬授業を改善していきます。		
到達目標	(1) 高等学校学習指導要領をよく読み、数学科の目標が理解できるようになる。 (2) 高等学校学習指導要領の内容が理解できるようになる。 (3) 自分で学習指導案が作成できるようになる。		

授業計画

講義内容		修得すべき項目
(1)	『高等学校学習指導要領　数学』のアウトライン	□数学科の目標
(2)	数学Ⅰ「数と式」	□数と集合 □式
(3)	〃　「図形と計量」	□三角比 □図形の計量
(4)	〃　「二次関数」	□二次関数とそのグラフ □二次関数の値の変化
(5)	〃　「データの分析」	□四分位数 □箱ひげ図
(6)	数学Ⅱ「いろいろな式」	□式と証明 □高次方程式
(7)	〃　「図形と方程式」	□直線と円 □軌跡と領域
(8)	〃　「指数関数・対数関数」	□指数関数 □対数関数
(9)	〃　「三角関数」	□角の拡張 □三角関数 □三角関数の加法定理
(10)	〃　「微分・積分の考え」	□微分の考え □積分の考え
(11)	学習指導案の作成	□指導観、目標、計画、主眼、準備、本時過程
(12)	模擬授業実習（1）	□学習活動・内容 □説明の留意点
(13)	〃　（2）	□学習活動・内容 □発問の留意点
(14)	〃　（3）	□学習活動・内容 □板書の留意点
(15)	〃　（4）	□学習活動・内容 □板書の留意点

履修上の注意	模擬授業実習では事前の十分な準備が必要です。
準備学習の内容	学習指導案の準備を十分行なうこと。
参考図書	新井仁著「板書の工夫」明治図書
学習相談	3号館1階　渋谷研究室　　e-mail: sibutani@kurume-it.ac.jp
成績評価方法	模擬授業実習50%、期末テスト50%で総合評価
関連科目	数学科教育法Ⅰ → 数学科教育法Ⅱ

授業科目名	数学科教育法Ⅱ	科目コード	70900
英字科目名	Instructional Methods in Mathematics II	コース名	数学コース
科目区分	教職に関する科目	セメスター(履修学年･学期)	6セメスター(3年次・後期)
代表教員	渋谷　憲政	単位	2単位
担当教員	渋谷　憲政(Norimasa SHIBUTANI)		
使用テキスト	『高等学校学習指導要領解説・数学編・理数編』(文部科学省) およびプリント配布		
授業の概要	数学科教育法Ⅰに引き続き、特に数学Ⅲ、数学Ａ、数学Ｂ、数学活用の内容とその教育方法を学習します。社会生活と数学の関係の具体例を挙げてもらい、教材開発の一助とします。生徒が間違いやすい例も多く挙げ、授業実習に活かします。後半では学習指導案を作成し、実際に模擬授業を各人に行なってもらいます。その後、質疑応答を行ない、模擬授業を改善していきます。		
到達目標	(1) 高等学校数学科の指導方法とその内容が理解できるようになる。 (2) 学習指導案の作成が十分できるようになる。 (3) 指導案を基にして模擬授業を充実させていくことができる。		

授業計画

講義内容		修得すべき項目
(1)	数学Ⅲ「平面上の曲線と複素数平面」	□平面上の曲線 □複素数平面
(2)	〃 「極限」	□数列とその極限 □関数とその極限
(3)	〃 「微分法」	□導関数 □導関数の応用
(4)	〃 「積分法」	□不定積分と定積分 □積分の応用
(5)	数学Ａ「場合の数と確率」	□場合の数 □確率
(6)	〃 「整数の性質」	□約数と倍数 □ユークリッドの互除法 □合同式
(7)	〃 「図形の性質」	□平面図形 □空間図形
(8)	数学Ｂ「確率分布と統計的な推測」	□確率分布 □正規分布 □統計的な推測
(9)	〃 「数列」	□数列とその和 □漸化式と数学的帰納法
(10)	〃 「ベクトル」	□平面上のベクトル □空間座標とベクトル
(11)	数学活用	□数学と人間の活動 □社会生活における数理的な考察
(12)	学習指導案の作成	□指導観、目標、計画、主眼、準備、本時過程
(13)	模擬授業実習（１）	□学習活動・内容 □説明と発問の留意点
(14)	〃 （２）	□学習活動・内容 □板書の留意点
(15)	〃 （３）	□学習活動・内容 □板書の留意点

履修上の注意	模擬授業実習では事前の十分な準備が必要です。
準備学習の内容	学習指導案の準備を十分行なうこと。
参考図書	柴田義松・木内剛著「教育実習ハンドブック」学文社
学習相談	3号館1階　渋谷研究室　　e-mail: sibutani@kurume-it.ac.jp
成績評価方法	模擬授業実習50%、期末テスト50%で総合評価
関連科目	数学科教育法Ⅰ → 数学科教育法Ⅱ →数学科教育法Ⅲ

授業科目名	数学科教育法Ⅲ	科目コード	70910
英字科目名	Instructional Methods in Mathematics III	コース名	数学コース
科目区分	教職に関する科目	セメスター(履修学年･学期)	7セメスター(4年次・前期)
代表教員	渋谷　憲政	単位	2単位
担当教員	渋谷　憲政(Norimasa SHIBUTANI)		
使用テキスト	『中学校学習指導要領解説・数学編』(文部科学省) およびプリント配布		
授業の概要	中学・高校の数学に関するトピックについて、数学史を織り交ぜながら講義をします。代数、幾何、解析を軸に中心となる概念を理解します。また、数学教育の目的と方法を学習し、中学校学習指導要領を読み、そのアウトラインを理解します。		
到達目標	(1) 中学校学習指導要領をよく読み、数学科の目標が理解できるようになる。 (2) 中学校学習指導要領の内容が理解できるようになる。 (3) 数学的活動の具体例を理解し、各自でその具体例がつくれるようになる。		

授業計画

	講義内容	修得すべき項目
(1)	構造主義	□体とその例
(2)	数学史	□エジプト □バビロニアにおける数学
(3)	ユークリッド原論	□中学における幾何の証明
(4)	類推と一般化	□帰納法と演繹法
(5)	数と量	□様々な量を抽象化して数を考える
(6)	３・４次方程式	□３・４次方程式の解き方
(7)	無限級数	□循環小数を分数で表す
(8)	数学教育の目的と方法（１）	□教科の目標
(9)	〃　（２）	□各学年の目標とその内容
(10)	〃　（３）	□各学年の内容
(11)	〃　（４）	□数学的活動
(12)	何が理解しにくいか	□文字の使用 □関数 □極限
(13)	『中学校学習指導要領』の内容	□数学のよさ
(14)	『中学校学習指導要領』の内容	□数学的活動の具体例
(15)	『中学校学習指導要領』の内容	□数学的活動の具体例

履修上の注意	数学および数学教育についての自分の考えをきちんと持てるように努めること。
準備学習の内容	数学史、論理などの本を読んでおくこと。
参考図書	ボイヤー『数学の歴史』朝倉書店
学習相談	3号館1階　渋谷研究室　　e-mail: sibutani@kurume-it.ac.jp
成績評価方法	期末テスト80%、演習20%で総合評価
関連科目	数学科教育法Ⅱ　→　数学科教育法Ⅲ　→　数学科教育法Ⅳ

授業科目名	数学科教育法Ⅳ	科目コード	70920
英字科目名	Instructional Methods in Mathematics IV	コース名	数学コース
科目区分	教職に関する科目	セメスター(履修学年･学期)	8セメスター(4年次・後期)
代表教員	渋谷　憲政	単位	2単位
担当教員	渋谷　憲政(Norimasa SHIBUTANI)		
使用テキスト	『中学校学習指導要領解説・数学編』(文部科学省) およびプリント配布		
授業の概要	中学数学の内容とその教育方法を、学習指導要領に即しながら学習します。社会生活と数学の関係の具体例を挙げてもらい、教材開発の一助とします。生徒が間違いやすい例も多数挙げ、授業実習に活かします。後半では学習指導案を作成し、実際に模擬授業を各人に行なってもらいます。その後、質疑応答を行ない、模擬授業を改善していきます。		
到達目標	(1) 中学校数学科の指導方法とその内容が理解できるようになる。 (2) 学習指導案の作成が十分できるようになる。 (3) 指導案を基にして模擬授業の内容を充実させていくことができる。		

授業計画

講義内容		修得すべき項目
(1)	中学数学・第１学年「数と式」	□正の数、負の数 □文字 □一元一次方程式
(2)	中学数学・第１学年「図形」	□基本的な作図 □空間図形 □図形の計量
(3)	中学数学・第１学年「関数」	□比例、反比例 □座標 □グラフ
(4)	中学数学・第２学年「数と式」	□整式の加減 □連立二元一次方程式
(5)	中学数学・第２学年「図形」	□平行線 □三角形の合同条件 □証明
(6)	中学数学・第２学年「関数」	□一次関数 □二元一次方程式と一次関数
(7)	中学数学・第３学年「数と式」	□平方根 □式の展開と因数分解 □二次方程式
(8)	中学数学・第３学年「図形」	□相似 □円周角と中心角 □三平方の定理
(9)	中学数学・第３学年「関数」	□二次関数（一般形は高校）とそのグラフ
(10)	中学数学・全学年「資料の活用」	□代表値 □ヒストグラム □確率 □標本調査
(11)	教材開発	□三平方の定理、確率
(12)	学習指導案の作成	□指導観、目標、計画、主眼、準備、本時過程
(13)	模擬授業実習（１）	□学習活動・内容 □説明と発問の留意点
(14)	〃　（２）	□学習活動・内容 □板書の留意点
(15)	〃　（３）	□学習活動・内容 □板書の留意点

履修上の注意	模擬授業実習では事前の十分な準備が必要です。
準備学習の内容	学習指導案の準備を十分行なうこと。
参考図書	文部省「指導計画の作成と学習指導の工夫」(平成３年)
学習相談	3号館1階　渋谷研究室　　e-mail: sibutani@kurume-it.ac.jp
成績評価方法	模擬授業50%、期末テスト50%で総合評価
関連科目	数学科教育法Ⅲ　→　数学科教育法Ⅳ

授業科目名	工業科教育法Ⅰ	科目コード	70660
英字科目名	Instructional Methods in Engineering I	コース名	教職課程

科目区分	教職に関する科目	セメスター(履修学年･学期)	6セメスター（3年次・後期）
代表教員	立花　均(Hitoshi TACHIBANA)	単位	2単位
担当教員	立花 均(Hitoshi TACHIBANA)		
使用テキスト	『高等学校学習指導要領・第3章 第2節 工業』(2009年3月) およびプリント配布		
授業の概要	『高等学校・工業』の中の各専門学科に共通の基礎的科目の目標と内容について、学習指導案の作成を通して検討する。		
到達目標	⑴ 『高等学校・工業』の基礎的科目の目標と内容について理解する。 ⑵ 工業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を生徒にどのように教育していけばよいかについて自分の考えを持てるようにする。 ⑶ 学習指導案の作成を行なうことで、工業の基礎的科目の教授法についての考えを持てるようにする。		

授業計画

講義内容		修得すべき項目
(1)	工業技術基礎⑴	□人と技術 □技術者の使命と責任 □環境と技術
(2)	〃 ⑵	□形態を変化させる加工 □質を変化させる加工
(3)	〃 ⑶	□生産の流れと技術 □基礎的な分析及び測定技術
(4)	工業数理基礎⑴	□工業の事象の計算 □面積・体積・質量 □単位
(5)	〃 ⑵	□力 □流れ □計測と誤差
(6)	〃 ⑶	□応用的な数理処理
(7)	情報技術基礎⑴	□産業社会と情報技術 □コンピュータの基礎
(8)	〃 ⑵	□コンピュータシステム □プログラミングの基礎
(9)	〃 ⑶	□コンピュータ制御の基礎 □情報技術の活用
(10)	材料技術基礎⑴	□工業材料と社会生活 □工業材料の性質と構造
(11)	〃 ⑵	□工業材料の検査 □工業材料の製造
(12)	〃 ⑶	□工業材料の加工 □工業材料と環境
(13)	環境工学基礎⑴	□人間と環境
(14)	〃 ⑵	□産業と環境 □生活環境の保全
(15)	〃 ⑶	□環境に関する法規 □環境対策技術の基礎

履修上の注意	学習指導案の作成を通して、工業教育についての自分の考えを主体的・積極的に深めていくこと。
準備学習の内容	自分の作成した学習指導案を見直し、改善点を考えること。
参考図書	
学習相談	非常勤講師室
成績評価方法	学習指導案 50%、期末テスト 50%
関連科目	工業科教育法Ⅰ → 工業科教育法Ⅱ

授業科目名	工業科教育法Ⅱ	科目コード	70670
英字科目名	Instructional Methods in Engineering Ⅱ	コース名	教職課程
科目区分	教職に関する科目	セメスター(履修学年・学期)	6セメスター(3年次・集中講義)
代表教員	立花 均(Hitoshi TACHIBANA)	単位	1単位
担当教員	立花 均(Hitoshi TACHIBANA)		
使用テキスト	プリント配布		
授業の概要	日本がなぜ今日のように技術大国化するに至ったのかを、その歴史的過程から検討する。また日本がこれから技術大国として諸外国との共存共栄をいかに図っていけばよいか、その具体的な方策についても検討する。		
到達目標	⑴ 工業の教員としての指導力を高めるため、今日の日本の産業の歴史的背景について理解する。 ⑵ 今日の日本の産業の在り方について理解する。 ⑶ 技術大国として諸外国との共存共栄を図っていく方策について理解する。		

授業計画

	講義内容	修得すべき項目
(1)	イギリス産業革命	□生産システムの革命 □販路の拡大
(2)	欧米列強のアジアへの膨張	□欧州・北米の産業革命 □販路としてのアジア
(3)	欧米列強への対抗策としての日本の近代化⑴	□日本の近代化の時期 □欧米列強の膨張の中身
(4)	〃 ⑵	□富国と強兵 □富国と強兵の変遷
(5)	強すぎる技術大国の問題点－失業の輸出	□ イギリスとインド □集中豪雨的輸出
(6)	諸外国との共存共栄策⑴	□資本財と消費財 □日本の貿易黒字の中身
(7)	諸外国との共存共栄策⑵	□裏方産業 □共存共栄
(8)	まとめ	□全体の振り返りとまとめ

履修上の注意	毎回の授業の最後に、その時間の授業で理解したこと考えたことをレポートにまとめてもらう。
準備学習の内容	今日の経済の動向を、授業内容の観点からよく観察すること。
参考図書	唐津一『デフレ繁栄論』PHP 研究所
学習相談	非常勤講師室
成績評価方法	毎回の授業後のレポート 100%
関連科目	工業科教育法Ⅰ → 工業科教育法Ⅱ → 工業科教育法Ⅲ

授業科目名	工業科教育法Ⅲ	科目コード	70680
英字科目名	Instructional Methods in Engineering Ⅱ	コース名	教職課程

科目区分	教職に関する科目	セメスター(履修学年・学期)	6セメスター(3年次・集中講義)
代表教員	立花 均(Hitoshi TACHIBANA)	単位	1単位
担当教員	立花 均(Hitoshi TACHIBANA)		
使用テキスト	プリント配布		
授業の概要	技術的な問題はいかにして生じ、その解決は具体的にどのような方法によって可能となるのかについて体系的に検討する。また科学と比較しながら、技術の方法の特質について検討する。		
到達目標	⑴ 技術的な問題の解決法を理解する。 ⑵ それにより、工業の教員として技術的問題の解決能力を生徒たちに養成出来るようにする。 ⑶ 技術の方法の特質を理解することで、技術の教育のポイントがどこにあるのかを理解する。		

授業計画

講義内容		修得すべき項目
(1)	技術的問題の発生	□状況と問題の発生
(2)	問題の生じる状況を把握する方法	□頭での理解 □状況を書き出してみての理解
(3)	問題の検討⑴	□思い込みと印象 □実験、調査、計算
(4)	〃 ⑵	□問題の良否の検討 □可能・不可能の検討
(5)	技術は応用科学か	□応用科学という技術の捉え方
(6)	技術の方法の特質	□科学を応用しない技術の方法
(7)	技術の教育	□技術的知識 □技術的知識に基づく実地体験の蓄積
(8)	まとめ	□全体の振り返りとまとめ

履修上の注意	毎回の授業の最後に、その時間の授業で理解したこと考えたことをレポートにまとめてもらう。
準備学習の内容	身の回りの問題解決を、授業内容をヒントにして試みること。
参考図書	唐津一『販売の科学』PHP 文庫 古味堯通『教育の展望』福村出版
学習相談	非常勤講師室
成績評価方法	毎回の授業後のレポート 100%
関連科目	工業科教育法Ⅱ → 工業科教育法Ⅲ

授業科目名	道徳教育の理論と方法	科目ｺｰﾄﾞ	70590
英文科目名	Theory and Methods in Moral Education	コース名	教　職　課　程
科目区分	教 職 に 関 す る 科 目	履修セメスター	１セメスター（1年次・前期）
代表教員	堀　憲一郎（Kenichiro HORI）	単　　位	２単位
担当教員	堀　憲一郎（Kenichiro HORI）		
使用テキスト	プリント配布		

授業の概要

今日の日本の社会では、確固とした道徳観の欠如や家庭と地域社会の教育機能の低下といった問題が、道徳教育を行なう上での大きな障害となっている。本科目では、自分の道徳教育観を育てていくための基礎として、まず中学校学習指導要領の道徳の章を見る。ついで、道徳性がどのように発達していくのか，そのメカニズムと理論を概観する。さらに学校教育における道徳教育の実際を検討し、家庭や地域が道徳教育に果たす役割についても検討する。

到達目標

（１）教育現場での実践力を高める、（２）学校が家庭、地域とどのように連携して道徳教育を行なっていけばよいかという視点を養う、（３）道徳性の発達と道徳教育の関係性を理解する

授　業　計　画

講義内容		修得すべき項目
(1)	中学校学習指導要領・第３章　道徳	□目標 □内容 □指導計画の作成と内容の取り扱い
(2)	道徳性とは何か	□人間の行動と道徳性の理解
(3)	道徳性の発達（１）	□道徳性の発達に関する理論とメカニズムの理解
(4)	道徳性の発達（２）	□道徳性の発達に関する理論とメカニズムの理解
(5)	道徳性の発達（３）	□道徳性の発達に関する理論とメカニズムの理解
(6)	文化と道徳	□文化の多様性と道徳について
(7)	中間確認まとめ	□前半の内容の振り返りと理解の確認
(8)	学校教育の中での道徳教育（１）	□道徳教育の目標
(9)	〃　（２）	□道徳教育の内容と計画
(10)	〃　（３）	□道徳教育の方法
(11)	道徳と人権の理解　（１）	□人権と差別について
(12)	〃　（２）	□人権と差別について
(13)	道徳教育に果たす家庭・地域の役割	□教育愛　□生活習慣　□地域の連帯と教育力
(14)	道徳教育の課題	□今後の課題について
(15)	総まとめ	□全体の振り返りと理解の確認

履修上の注意	毎回の授業の最後に、その日の授業で理解したこと考えたことをレポートにまとめてもらい、平常点とする。
準備学習の内容	身の回りの問題について、授業内容をヒントに考察してみること。
参考図書	授業において紹介する。
学習相談	6 号館 4 階　堀研究室　　e-mail:hori@kurume-it.ac.jp
成績評価方法	毎回の授業でのレポート　５０％、　期末テスト　５０％
関連科目	教職科目全般

授業科目名	教　育　方　法　論	科目コード	70640
英字科目名	Method of Education	コース名	教　職　課　程

科目区分	教 職 に 関 す る 科 目	履修セメスター	６セメスター(3 年次・後期)
代表教員	堀　憲一郎（Kenichiro HORI）	単位	２単位
担当教員	堀　憲一郎（Kenichiro HORI）		
使用テキスト	プリント配布		
授業の概要	授業実践における教育方法の背景にある基本的な理論や分析する際の視点を様々な授業実践事例や教育方法に関する研究知見を通して考察する。またその観点から、情報機器を用いた教育の方法や説明の技術についても検討する。		
到達目標	（１）学習理論と教育方法の理解、（２）学習者の特性の理解と教育方法の理解、（３）効果的な授業実践の具体例の特徴とその教育方法の理解。		

授　業　計　画

講義内容		修得すべき項目
(1)	教育方法論とは	□教育方法論についての概要理解
(2)	授業過程を見る視点	□行動主義，認知主義，状況論からの授業過程理解
(3)	知識獲得とその方法（１）	□知識獲得とは
(4)	知識獲得とその方法（２）	□知識を教える教育とは
(5)	理科の授業過程の理解（１）	□授業における学習者の認知プロセス
(6)	理解の授業過程の理解（２）	□科学的概念の理解を促す教育方法
(7)	動機付けと教育方法（１）	□動機づけの理解
(8)	動機付けと教育方法（２）	□学習者の目標志向性の理解
(9)	話し合いを利用した授業実践（１）	□国語の授業実践を通して
(10)	話し合いを利用した授業実践（２）	□相互教授法とは
(11)	個人差と教育方法（１）	□個人差の理解と測定・評価
(12)	個人差と教育方法（２）	□発達障害等への対応
(13)	情報機器を用いた教育の方法（１）	□教育における情報機器の活用
(14)	情報機器を用いた教育の方法（２）	□コンピューター，インターネットを活用した教育
(15)	総まとめ	□全体の振り返りと理解の確認

履修上の注意	授業で紹介する，様々な教育方法を基礎づける理論やその視点をしっかりと理解しよう。
準備学習の内容	自分の勉強方法やスポーツのトレーニング方法を授業内容をヒントに工夫してみること。
参考図書	授業で紹介する
学習相談	6 号館４階　堀　研究室　　e-mail: hori@cc.kurume-it.ac.jp
成績評価方法	課題提出・授業態度 40%，レポート 60%で総合評価
関連科目	教職科目全般

授業科目名	生徒・進路指導論	科目コード	70600
英字科目名	Student Guidance	コース名	教　職　課　程
科目区分	教職に関する科目	セメスター (履修学年・学期)	3セメスター (2年次・集中講義)
代表教員	原 幸範 (Yukinori HARA)	単　　位	2　単位
担当教員	原 幸範 (Yukinori HARA)		
使用テキスト	プリント配布		
授業の概要	今世紀を生きる児童生徒の現状を概観すると同時に近年の生徒指導を考察する。近年の生徒指導の変遷を理解し、生徒指導の考え方と課題及びその解決について解説する。また、進路指導では、生徒の適性や資質を分析して、進路希望の実現のための支援のあり方を考察する。進路実現のための取り組みについて生徒自ら判断し、自ら選択し、生徒自身にどのように考えさせればよいかを説明する。学校組織では、生徒指導と進路指導が実際どのように行なわれているか、具体的事例で解説する。		
到達目標	⑴生徒指導の意義や考え方を理解し、教育現場における生徒指導の方法を身に付ける。 ⑵生徒指導の領域や学校の指導体制を学び、適切な指導方法を説明できるようになる。 ⑶進路指導については、児童生徒理解のもとカウンセリングやコーチングなどの実践的な指導方法を生かした指導を知ることにより、効果的な指導ができるようになる。		

授　業　計　画

講義内容		修得すべき項目
(1)	生徒指導の変遷と生徒指導の意義	□生徒指導の考え方についての変遷を学ぶ
(2)	生徒指導と個性	□自己教育能力の育成、自主性・自立性・自発性の育成
(3)	生徒指導と社会性	□公共心の育成、人間関係と社会性、社会生活の意義
(4)	生徒指導の領域	□基本的生活習慣、学習習慣、心身の健康と安全　ほか
(5)	学校組織における生徒指導	□学校全体に関わる生徒指導の方法を考える
(6)	学級経営と生徒指導	□豊かな学級生活を送るための個別指導・集団指導
(7)	生徒指導における教育相談	□生徒指導の方法とカウンセリング・マインドを学ぶ
(8)	生徒指導の実際(1)	□問題行動の事例を通して生徒指導の方法を考える
(9)	生徒指導の実際(2)	□不登校やいじめ等と効果的な生徒指導組織について
(10)	進路指導の意義と目的	□進路指導及びキャリアガイダンスの基本を学ぶ
(11)	進路指導の組織と方法	□効率的な進路指導と学校の組織体制について
(12)	進路希望と進路適性	□進路希望と能力・適性　□生涯学習社会について
(13)	進路への関心の形成	□系統的な進路指導計画の立て方と運用
(14)	進路に関する情報の収集方法	□情報収集の仕方　□情報提供の時宜性
(15)	生徒指導と進路指導における留意事項	□生徒指導における暴力 □進路指導における情報管理

履修上の注意	カウンセリング・マインドを持った生徒指導を調べ、また、生徒の興味、関心、意欲、資質を信頼した進路指導についての考えを発表する。学校現場における教師の苦労と満足感・達成感を肌で感じることによって教職の魅力を理解し、自分の適性や資質・能力を考慮し、将来、教職に就くかどうかの判断をする。
準備学習の内容	普段から、生徒の事件や学校の危機管理など教育問題に関するニュースに興味を持つ。また、新聞記事や教育キーワードを図書館やネット活用で詳細に調べる習慣をもつ。
参考図書	『生徒を理解する～生徒指導・教育相談～』椙山喜代子、渡辺千歳(著)（光文社）
学習相談	6号館4階　原 研究室　e-mail: yuk-hr @ kurume-it.ac.jp
成績評価方法	授業取り組み状況 20%　課題レポート　30%　期末テスト　50%
関連科目	教職科目全般

授業科目名	教育相談の基礎	科目コード	70610
英字科目名	School Counseling Methods	コース名	教　職　課　程
科目区分	教職に関する科目	セメスター (履修学年・学期)	5セメスター (3年次・前期)
代表教員	原 幸範 (Yukinori HARA)	単　　位	2　単位
担当教員	原 幸範 (Yukinori HARA)		
使用テキスト	『学級教育相談入門』 有村久春 (著)　(金子書房)		
授業の概要	生徒ひとりひとりの教育における諸問題について、本人またはその保護者に対して、その望ましいあり方を適切に助言と支援ができなければならない。その際、教育相談の知識と理解 及び カウンセリングの実際が有効に働く。講義では学級経営における教育相談について管理職や養護教諭、スクールカウンセラー等との連携・協力を学ぶ。		
到達目標	⑴カウンセリングやカウンセラーの職務の概要を知り、生徒理解を深める能力を養う。 ⑵教職員間の連携協力の大切さを知り、教育相談の重要性を説明できるようになる。 ⑶教育相談の具体的事例を考察することにより、学級担任として、適切な生徒理解と生徒指導ができるようになる。		

授　業　計　画

	講義内容	修得すべき項目
(1)	21世紀を生きる子どもと教育相談	□生徒理解と教育相談の意義・目的を理解する
(2)	「生きる力」と自立心の育成	□子どもの自己教育能力・自己指導力について
(3)	教育相談・カウンセリングの考え方	□カウンセリングの発想で児童生徒に関わる
(4)	カウンセリング・マインドを持つ教師	□生徒目線、傾聴、共感的受容をもつ教師の自己開示
(5)	子どもの感情やメッセージの捉え方	□児童生徒の動態観察とタイミングを見逃さない視点
(6)	子どもの努力・成長で叱る・褒める	□問題解決能力や自己教育力を信頼した育て方
(7)	学校組織と教育相談のあり方について	□教育相談に関する学校組織の連携・協力を考える
(8)	計画的な学級集団の経営について	□豊かな学級生活のための教師の役割を理解する
(9)	指導観・授業観の転換について	□グループ活動と異年齢集団、主体的な活動を考える
(10)	教育相談の計画と活動の実際	□学級担任による教育相談計画の必要性と実際
(11)	相談計画の作成と教育相談活動	□計画立案の実際と日々の教育相談活動を学ぶ
(12)	教育相談の指導報告書と事例研修	□個人面談や家庭訪問、保護者会等と指導報告書作成
(13)	スクールカウンセラーの役割と連携	□カウンセラー養成と資格取得について理解する
(14)	カウンセラーに求められる資質	□人格的資質　□実践経験　□教育訓練
(15)	学校の現状(学級崩壊、不登校、いじめ)	□学級崩壊の意味、不登校の実態、いじめ克服を考える

履修上の注意	教育相談を生かした学級経営に関する課題レポートを作成する。また、授業では教育現場の実践例を紹介して討議することになるので各自の考えをまとめておくこと。
準備学習の内容	現実に発生している教育時事(いじめ、不登校、傷害事件や生徒補導など)のニュースに関心を払う。教育の専門用語を調べる（ネット検索可）習慣を身につける。
参考図書	『生徒指導・教育相談の理論と事例分析』堀尾良弘(著)（ナカニシア出版）
学習相談	6号館4階　原 研究室　e-mail: yuk-hr @ kurume-it.ac.jp
成績評価方法	授業取り組み状況 20%　課題レポート　30%　期末テスト　50%
関連科目	教職科目全般

授業科目名	教　職　実　践　演　習	科目コード	70950
英字科目名	Practical Seminar on Teaching	コース名	教　職　課　程
科目区分	教職に関する科目	セメスター (履修学年・学期)	8セメスター (4年次・後期)
代表教員	原 幸範 (Yukinori HARA)	単　　位	2　単位
担当教員	原 幸範 (Yukinori HARA)		
使用テキスト	『教師力を磨く』　仲島正教(著)　(大修館書店)		
授業の概要	テキストを活用して論作文を作成し、クラス担任の業務内容とその教育的価値を考察する。また、その論作文を下地にスピーチを実施して実践的話術を学ぶ。更に、現場教師の講演を聞くことによって、教師の使命、学校教育の役割、講演の仕方などを学ぶ。現場で遭遇した具体的事例をもとに、その対応・解決の仕方等、現場で必要とされる実践力・即応能力の養成を図る。		
到達目標	教師としての全人格的資質は、日々の実践・試行錯誤により備わることに鑑み、以下の６項目の基礎・基本を習得する。　⑴教師の使命感・責任感・教育愛の醸成 ⑵生徒理解　⑶教科指導・生徒指導・進路指導　⑷学級経営能力 ⑸対人関係能力（保護者や同僚との人間関係等）　⑹問題処理能力		

授　業　計　画

講義内容		修得すべき項目
(1)	教師に必要な処理能力や対応力など	□授業実践のための要点、論作文の書き方、スピーチの仕方、学習指導案の意義などについて
(2)	「教師のすすめ」～教師の仕事とは～	□理想の教師像と教師の使命について考察する
(3)	「若いのすすめ」～若さと教育熱～	□教育上の失敗事例とその処理方法、危機管理について
(4)	「出会いのすすめ」～第一印象とは～	□スピーチのポイントを学び、自己紹介等を実践する
(5)	講演聴講～現場教師の生の声を聞く～	□現場で働く教師の生の声を聞いて、教師の魅力を知る
(6)	「遊びのすすめ」～生徒と共にある～	□共感的な対応や生徒目線の重要性を学ぶ
(7)	「ほめるのすすめ」～褒め方・叱り方～	□生徒の意欲を刺激する褒め方と叱り方について
(8)	「研究授業のすすめ」～指導案作成～	□指導観の意義を知り、時間配分を考えて授業設計する
(9)	「研究授業のすすめ」～授業実践～	□分かり易い説明、発問の仕方、板書計画などの要点
(10)	「学級通信のすすめ」～学級通信作成～	□学級通信作成を通して 生徒理解と保護者対応を学ぶ
(11)	「書くことのすすめ」～ノート取り方～	□論作文の書き方と生徒のノート指導についての理解
(12)	「人権教育のすすめ」～平等と権利～	□人権意識と差別・いじめ・暴力行為についての理解
(13)	「体育のすすめ」～人間関係と健康～	□教師の健康管理と欠席・遅刻指導の方法について
(14)	「礼儀のすすめ」～社会性と協力～	□教師の社会性と礼儀・マナーの指導方法について
(15)	「研修のすすめ」～向上心と研修～	□教師に必要な実践力のいろいろを理解する

履修上の注意	論作文作成は教員採用試験には必須である。また、スピーチや模擬授業、討論、面接などを実践し、相互に観察することによって各自の観察力・批判力・判断力を磨く。
準備学習の内容	論作文のテーマになる得るような教育問題のニュースや情報に関心を持つこと。
参考図書	『キーワードで学ぶ　特別活動・生徒指導・教育相談』有村久春(著)　(金子書房) 中央教育審議会答申、教育基本法、学習指導要領（中学・高校）等の資料
学習相談	６号館４階　　原 研究室　　e-mail: yuk-hr @ kurume-it.ac.jp
成績評価方法	授業取り組み状況 20%　　論作文 20%　　及び　スピーチや授業実践等を総合的に評価
関連科目	教職科目全般

授業科目名	教　育　実　習　Ⅰ	科目コード	70720
英字科目名	Directed Teaching Ⅰ	コース名	教　職　課　程
科目区分	教職に関する科目	セメスター （履修学年・学期）	5・6セメスター (3年次・前後期)
代表教員	原 幸範（Yukinori HARA）	単　　位	2単位
担当教員	原 幸範（Yukinori HARA）		
使用テキスト	プリント配布		
授業の概要	教育実習Ⅱ・Ⅲに備えての事前指導である。教育実習のため、学校現場へ行く前までに必要な知識を獲得する。「うまい授業」を実施するための学習指導案を作成したり、教壇に立って授業を実施したり、授業観察とその視点を確認する。学習指導案や模擬授業の内容については、各自の教員免許取得を目指している教科から選ぶこととし、その作成と授業実践を重ねることによってスキルアップを図る。		
到達目標	⑴　模擬授業の実施を通して、「うまい授業」を行なうための実践能力を養う。 ⑵　授業における説明技術、発問方法、板書の仕方、授業観察法などを身につける。 ⑶　教育現場における教師の義務と責任等を考察し、適切に実践できるようになる。		

授　業　計　画

	講義内容	修得すべき項目
⑴	教育実習の意義について	□理論と実践の観点より（礼儀やマナー等、実習の予備知識）
⑵	学習指導案の作成について　⑴	□教材の意義・生徒理解・指導方法等を書くことによって、うまい授業を実施するための下地を分析する。
⑶	学習指導案の作成について　⑵	□授業展開を詳細に書くことによって、生徒の興味・関心が高まり、期待される能力が獲得できるようにする。
⑷	うまい授業を実施するとは	□うまい授業を実施するためのポイントを理解することにより、学習指導案の作成や授業実践ができるようにする。
⑸	うまい授業のポイント⑴	□授業準備（教材の価値や意味を考えて、生徒にどのように伝え、理解させ、定着させるかを学ぶ。）
⑹	うまい授業のポイント⑵	□板書の仕方（板書すべき内容、簡潔な説明、理解しやすい図示の利用を理解して、学習内容の要点整理を図る。）
⑺	うまい授業のポイント⑶	□発問の工夫と傾聴する態度（教科書や準備したノートを見ないで、生徒の動態に応じて話すことが必要である。）
⑻	うまい授業のポイント⑷	□説明の仕方（図や表、グラフなどを活用して説明する。決して教科書等の棒読みにならない。比較対照による説明を心がけ、イメージしやすい具体例を用意する。）
⑼	提出された学習指導案について ～講評と評価～	□講評と評価を踏まえて、再度、学習指導案を訂正・加筆する。完成された学習指導案を再度提出する。
⑽～⒁	模擬授業（全員）	□うまい授業を実施するためのポイントを踏まえる □それぞれの模擬授業を観察して、授業展開のコツを学ぶ。 □学習指導案と比較して、授業展開の要点を確認する。
⒂	総まとめ	□より良い授業を目指して、互いの授業について討議する。

履修上の注意	模擬授業では、如何にして生徒に理解させるかを真剣に考えて実施すること。そのためには、学習指導案を詳しく書くことが「うまい授業」展開の要点となる。
準備学習の内容	学習指導案を丁寧に書き上げるために参考図書を活用する。また、授業のやり方を解説した資料等を図書館や書店、ネット検索で調べることも大切である。
参考図書	『教育実習の理論と実践』　九州地区教育実習研究会編　（中川書店） 『分かる授業ができる学習指導案のつくり方』　大木光夫(著)　（学習研究社）
学習相談	６号館４階　　原 研究室　　e-mail: yuk-hr @ kurume-it.ac.jp
成績評価方法	課題レポート 30%　　模擬授業 40%　　学習指導案 30%
関連科目	教職科目全般

授業科目名	教　育　実　習　Ⅱ	科目コード	70730
英字科目名	Directed Teaching Ⅱ	コース名	教　職　課　程
科目区分	教職に関する科目	セメスター （履修学年・学期）	7・8セメスター （4年次・前後期）
代表教員	原 幸範（Yukinori HARA）	単　　位	2　単　位
担当教員	原 幸範（Yukinori HARA）		
使用テキスト	『教育実習の理論と実践』　九州地区教育実習研究会編　　（中川書店） 『教育実習日誌』　（学芸図書出版社）		
授業の概要	教育実習に行く直前の大学における事前指導である。教師としての心構えや礼儀を確認して実習参加する。次に中学校もしくは高校の教育現場において実際に教師としての実習を行なう。教育実習後には教育実習報告会を開く。また、お世話になった実習校の先生方に各自お礼状を出し、そのコピーを大学の指導教員に提出する。		
到達目標	⑴ 専門職としての教師には理論と実践能力の双方が要求されるが、それを学校現場で体得する。　⑵ 実際の教育現場に臨み実践的な体験を積むことで、これまでに習得してきた知識や能力をより実践的に深める。　⑶ 教育実習で体験したことを振り返ることにより、各自がめざす「理想の教師像」に近づくための資質と能力を再考する。		

授　業　計　画

講義内容		修得すべき項目
(1)	事前指導 教育実習の概要と注意点⑴	□教育実習中の生活全般についての注意　①実習校のＯＲ　②実習校の教育方針や機構　③実習校のアクセスと所要時間　④身だしなみと言葉づかい　⑤挨拶と自己紹介　⑥指導教諭からの指導の受け方　⑦学校内外の禁止事項
(2)	事前指導 教育実習の概要と注意点⑵	□教育実習中における授業観察と授業実践についての注意　①授業観察　②教材研究　③学習指導案　④板書の仕方　⑤発問の仕方と留意事項　⑤うまい授業実践について　⑥個人情報と守秘義務　⑦査定授業と合評会について
(3)	事前指導　　人権教育について	□人権の尊重、差別・暴力と言葉遣い、共感的生徒理解
(4)	事前指導 教育実習日誌について	□日誌を書く際の注意点 □教育実習にはどのような観点が必要か
(5)	事前指導 礼状の書き方、適性検査	□手紙一般の書き方　　□実習後のお礼状の書き方 □教育実習に参加する適性を検査する
(6) ～ (13)	教育実習校での教育実習	□実習校の教育目標・指導方針の理解 □実習校の生徒実態の捉え方と対処法について
(14)	教育実習報告会(1) （教職課程を受講中の３年生出席）	□教育実習の報告スピーチ、質疑応答および意見交換 □報告会を踏まえての教育実習を総括するレポートの提出 □お礼状のコピー提出
(15)	教育実習報告会(2)	提出されたレポートをもとに、総括的な指導を行なう。

履修上の注意	教育実習を実施できる能力、態度、礼儀等を事前評価する。評価レベルに達していない場合や正当な理由を連絡せずに事前指導を受けていない場合は、その時点で実習への参加資格を失う。また、実習先への礼儀が疎かにならぬようにすること。
準備学習の内容	使用テキスト及び参考図書などを熟読して、事前準備を怠らぬこと。
参考図書	『教育実習まるわかり』～教育技術 MOOK～（小学館）
学習相談	６号館４階　　原 研究室　　e-mail: yuk-hr @ kurume-it.ac.jp
成績評価方法	教育実習校の評価 40%、実習日誌 30%、報告会後の総括レポート 20%、お礼状 10%
関連科目	教職科目全般

授業科目名	教　育　実　習　Ⅲ	科目コード	70740
英字科目名	Directed Teaching Ⅲ	コース名	教　職　課　程
科目区分	教職に関する科目	セメスター （履修学年・学期）	７・８セメスター （４年次・前後期）
代表教員	原 幸範（Yukinori HARA）	単　　位	２　単　位
担当教員	原 幸範（Yukinori HARA）		
使用テキスト	『教育実習の理論と実践』　九州地区教育実習研究会編　　（中川書店） 『教育実習日誌』　（学芸図書出版社）		
授業の概要	事前指導、事後指導および成績評価は、「教育実習Ⅱ」と同時に行なう。本科目は、中学校教員免許状取得を目指す者が中学校の教育現場において、「教育実習Ⅱ」２単位と合わせ４単位分の教育実習を行なうためのものである。		
到達目標	特に中学校の教育現場に即した教育の実践力を深める。		

授　業　計　画

講義内容		修得すべき項目
(1)	事前指導 教育実習の概要と注意点⑴	□教育実習中の生活全般についての注意　①実習校のＯＲ　②実習校の教育方針や機構　③実習校のアクセスと所要時間　④身だしなみと言葉づかい　⑤挨拶と自己紹介　⑥指導教諭からの指導の受け方　⑦学校内外の禁止事項
(2)	事前指導 教育実習の概要と注意点⑵	□教育実習中における授業観察と授業実践についての注意　①授業観察　②教材研究　③学習指導案　④板書の仕方　⑤発問の仕方と留意事項　⑤うまい授業実践について　⑥個人情報と守秘義務　⑦査定授業と合評会について
(3)	事前指導 人権教育について	□人権の尊重、差別・暴力と言葉遣い、共感的生徒理解
(4)	事前指導 教育実習日誌について	□日誌を書く際の注意点 □教育実習にはどのような観点が必要か
(5)	事前指導 礼状の書き方、適性検査	□手紙一般の書き方　　□実習後のお礼状の書き方 □教育実習に参加する適性を検査する
(6) ～ (13)	教育実習校での教育実習	□実習校の教育目標・指導方針の理解 □実習校の生徒実態の捉え方と対処法について
(14)	教育実習報告会(1) （教職課程を受講中の３年生出席）	□教育実習の報告スピーチ、質疑応答および意見交換 □報告会を踏まえての教育実習を総括するレポートの提出 □お礼状のコピー提出
(15)	教育実習報告会(2)	提出されたレポートをもとに、総括的な指導を行なう。

履修上の注意	中学校１種免取得希望者は、教育実習の期間は（「教育実習Ⅱ」と「同Ⅲ」を合わせて）３週間もしくは４週間である。（期間についてはそれぞれの実習校が決定する） ただし、高校１種免のみの取得を希望する者は「教育実習Ⅱ」の２週間だけであり、本科目を履修する必要はない。 教育実習を実施できる能力、態度、礼儀等を事前評価する。評価レベルに達していない場合や正当な理由を連絡せずに事前指導を受けていない場合は、その時点で実習への参加資格を失う。
準備学習の内容	使用テキスト及び参考図書などを熟読して、事前準備を怠らぬこと。
参考図書	『教育実習まるわかり』～教育技術 MOOK～（小学館）
学習相談	６号館４階　　原 研究室　　e-mail: yuk-hr @ kurume-it.ac.jp
成績評価方法	教育実習校の評価 40%、実習日誌 30%、報告会後の総括レポート 20%、お礼状 10%
関連科目	教職科目全般

授業科目名	介　護　等　体　験	科目コード	70840
英字科目名	Experience in Nursing	コース名	教　職　課　程
科目区分	教科又は教職に関する科目	セメスター （履修学年・学期）	5・6セメスター （3年次・前後期）
代表教員	原 幸範（Yukinori HARA）	単　　位	2　単位
担当教員	原 幸範（Yukinori HARA）		
使用テキスト	『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック　三訂版』現代教師養成研究会(大修館書店)		
授業の概要	中学校教員免許状を取得するには「介護等体験特例法」により、社会福祉施設等５日間、特別支援学校２日間の合計７日間の介護等体験が必要である。 本科目ではそのための事前指導、事後指導および介護等体験の実際を行なう。		
到達目標	介護等体験の実際を通して、教育の現場に携わる者としての人間力を養う。 ⑴　個人の尊厳や社会連帯の理念を学び､人間相互の関わりを説明できるようになる。 ⑵　体験を通して、人の心の痛みがわかり、人を大切にする資質と能力を身に付ける。 ⑶　体験を通して、人それぞれの価値観の相違を認められる心を持てるようになる。		

授　業　計　画

	講義内容	修得すべき項目
(1)	事前指導⑴　介護等体験の目的と概要	□介護等体験の意義と体験の重要性を知る
(2)	事前指導⑵　社会福祉施設等について	□社会福祉施設等の概要理解と体験上の留意事項
(3)	事前指導⑶　特別支援学校について	□特別支援学校の概要と教育方針等の理解
(4)	事前指導⑷　介護等体験での心構え	□介護等体験に臨む態度（言葉づかい、服装等）
(5)	事前指導⑸　車椅子の実習、事前準備	□車椅子利用上の注意点、事前に準備すべきこと
(6) ～ (11)	社会福祉施設等における 介護等体験（５日間）	□積極的に参加する姿勢と態度、心構えと心遣い □お礼状の書き方と送付時期及びコピー提出
(12) ～ (14)	特別支援学校における 介護等体験（２日間）	□積極的に参加する姿勢と態度、心構えと心遣い □教育効果を高めるための取り組み方と礼儀・礼法
(15)	事後指導　～体験の報告・発表と討議～	□介護等体験の発表と討議を通して、意義を深める。 □介護等体験の感想文を書いて自己評価する。

履修上の注意	介護等体験へ参加するための心構えや意識、態度、礼儀等を事前評価する。評価レベルに達していない場合や正当な理由を連絡せずに事前指導を受けていない場合は、その時点で介護等体験への参加資格を失う。また、事後指導まで済ませることにより、最終認定を受けることになる。
準備学習の内容	使用テキストの『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』を熟読すること。
参考図書	平成９年介護等体験特例法、福岡県介護等体験実施要領（ネット検索可能）
学習相談	６号館４階　　原 研究室　　e-mail: yuk-hr @ kurume-it.ac.jp
成績評価方法	事前･事後指導への参加状況20%　　体験日誌等30%　　お礼状20%　　感想文30%
関連科目	教職科目全般